

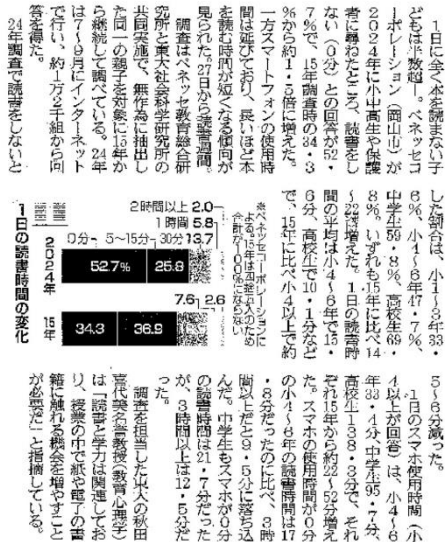


# キラリみんな輝く つもりっこ

令和7年10月30日  
第13号  
益城町立津森小学校

## 読書の秋～読書への誘い～

### 「読書ゼロ」半数超す



小中高生調査 スマホ長いほど短く

左の資料は、10月27日の熊日朝刊の掲載記事の一部です。本校が実施しています各種のアンケート結果でも、「読書離れ」が指摘されますが、この記事からも、「読書離れ」への危惧は、本校だけでなく、日本全体の問題であることがわかります。

人の一生には限りがあり、世の中のすべてを知り尽くすことは不可能です。読書をするによって、自分では実体験できないことを知ることができます。読書は知識を蓄え、感覚を磨き、考える力を養うだけでなく、視野を広げ、想像力を鍛えます。読後すぐには効果がなくても、心の奥にたくさんの栄養をためておくことが、これからの自分を豊かに、実りあるものにしていくことに違いありません。そこに、テレビやゲーム、スマホやタブレット等の電子情報とは違う「本を読む意味」があると思います。

本校では、読書の秋にちなみ、各学年や図書委員会で、様々な機会をとらえて、本に親しむ活動に取り組んでいます。全校的なイベントとしての読書活動の充実にとどまらず、国語科を中心とした授業の中でも、主たる言語活動のひとつとして、読書を核とした様々な活動を「学び」として位置付ける実践にも全学年で取り組んでいます。

子どもたちが本を読むようになるには、本を読む環境を設定することが一番だと言われています。

子どもたちの読書の日常化、習慣化につながる取組を日々重ねているところです。

保護者の皆様におかれましては、毎月0の付く日に実施しています「四賢デー」へのご協力は大変お世話になっております。

「読書の秋」・・・「読み聞かせをする」、「親子読書をする」、「大人が読書をする姿を見せる」、「公共図書館を定期的に利用する」など、子どもたちの読書への誘いをさらに支えていただければ幸いです。

